

校長室だより

No. 22

平成30年9月28日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず  
加 藤 嘉 一

## 進化していく学校 その2 - iPad導入 -

前号は、本校の外国語教育の様子を紹介しながら、進化する学校を少し御紹介しました。本号は、その2で情報教育による進化です。

学校では、コンピューターなどの情報手段となる機器（ICT）が、導入されています。総合的な学習が本格的に始まった15～16年くらい前から、子供たちが自由にデジタルカメラで写真を撮るようになったり、インターネットを使い調べたりするようになりました。わたしたちが行う仕事の様子も変わり、学級通信や学年通信などで簡単に写真が載せられるようになりました。デジカメが安価になる前は、ネガを使っているので失敗すればその分お金がかかり、写真を撮る枚数を気にしていました。それが、デジタルカメラで何枚でも気楽に撮っています。今や音楽の授業でもCD機器で流すよりも、教室にあるコンピューターで流すことが多くなりました。授業等で使いたい資料や教材を、コンピューターを使って示したりすることが当たり前になってきました。



【9月20日(木) 職員研修 iPad活用法】

そして、またまた大進化です。岡崎市は本年度、各小学校に iPad を子供用として40台導入してくれました。わたしたちは、20日(木)に業者の方から使い方の説明を受けました。これがすごい。iPadによりできるようになることを一部紹介します。

以下のことができると、例えば、調べ学習の助けになることはもちろんのこと、国語

### 【iPadが入ってできるようになること(一部)】※今後も発展すること前提で

- iPadに入っている様々なソフト(学校用として選ばれたもの)が活用できます。
- 「無線アクセスポイント」(機械)を教室のLANコンセントにつなげば、iPadはインターネットにつながり、様々な情報を調べることができるようになりました。
- 子供がパソコン室で作成した文書や絵、写真データなどをパソコン室で保存し、そのデータをiPadや教室のテレビで見ることができるようになりました。
- 子供がiPadを使って撮った写真や動画、作成した作品を、iPadに保存できるだけでなく、パソコン室の自分のフォルダに保存することもできます。
- iPadのよいところは、机の上に平におけるので、友達同士で見合うことができ、席を離れなくてもその情報を見ながら話し合いができます。

### 【わたしが考える課題】

- ◇ iPadが10台ごとに移動用のケースに入っており、約11kg（10kgの米袋とほぼ同じ）で重い。職員室で充電・管理されており、子供の持ち運び、移動中の破損が起こりうる。
- ◇「無線アクセスポイント」（機械）をつなぐことのできる場所が、今の段階では教室等に限定されている。
- ◇落とせば、壊れる。

や社会などの一人一人のまとめやポスター、みんなに見せたい資料などを、教室で、しかも手元で見あうことができます。また、算数・図工などで作った図や絵、理科などの観察や社会・体育・総合の探検などで撮った写真や動画を、見ることはもちろん、パソコン室の自分のフォルダにたくさん保存することができます。



【9月13日（木） 5の2体育マット運動】

石川先生は、すでに体育の授業で使っていました。使い方は、マット運動の練習場面において、自分の動きを動画で映し、確認したり、みんなでコツについて話し合ったりすることに使ったそうです。さすがです。ビデオカメラよりたくさんの台数が使え効率的で、画面は大きく簡単に再生できます。驚くのは、20歳代の石川先生より子供の方がiPadに慣れることが早いと聞いたことでした。スマホやタブレット等をすでに触っている子供がいることや、iPadへの興味、機械を扱うことに対する柔軟さがあるのですね。

平成32年度から始まる新学習指導要領では、「情報活用能力」という言葉が多く出てきます。よく聞く話題は、プログラミング教育でしょう。パソコンでソフトを作るプログラミングの授業とイメージしがちですが、文科省が示した「プログラミング学習の手引き」によると、コンピューターを使い「自分が意図する一連の活動を実現するために、論理的に考える力をつける教育」というようにまとめられています。例として、算数の正多角形の作図や、音楽のリズム・パターンの組み合わせ、理科、総合などの授業例が紹介されています。

時代の移り変わりとともに、教育も変わります。小学校の外国語教育は一步踏み出したばかりで、情報環境はものすごい勢いで変わっていきます。民間の動きよりもわたしたちの現場は少し遅れて導入されますが、子供とともに生活する教員として、今ある子供の姿をよく見つめ、そして子供にとって必要な力を考え続け、教育施策をより良いものを実現する役割を担っていきます。